

【短報】ミゾムネヒメサビキコリの前胸背板に認められた平滑隆起物の有無について

ミゾムネヒメサビキコリ *Agrypnus (Sagojo) yuppe* (Kishii, 1964) は、薩南諸島の黒島や口永良部島～八重山諸島の西表島にかけて分布する種である。サビキコリ属の中においては、前胸背板側縁が丸みを帯びた鋸歯状を呈すること、前胸腹側板と後胸腹板には明瞭な付節溝を有することでミゾムネヒメサビキコリ亜属に含まれ、体幅が広く、上翅は単色で、暗赤色の斑紋を欠くことが、本種を識別する特徴のとして知られている(大平, 1969; 大平・横原, 2012)。本種の記載に用いられた口永良部島の雌ホロタイプでは、前胸背板に一对の平滑隆起物を有することが明記され、本種の特徴のひとつとされていたが(Kishii, 1964)、これはときに不明瞭になることが報告されている(大平, 1970)。

筆者らは、奄美大島で採集されたミゾムネヒメサビキコリの中に、前胸背板の平滑隆起物がほとんど認められない個体(Fig. 1)と、著しく発達した個体(Fig. 2)があることに興味をもち、その変異を調べる目的で手元にある標本を調べ直した。その結果、平滑隆起物の状態は発達の度合いに変異があるものの、はっきりと認められる集団と、平滑

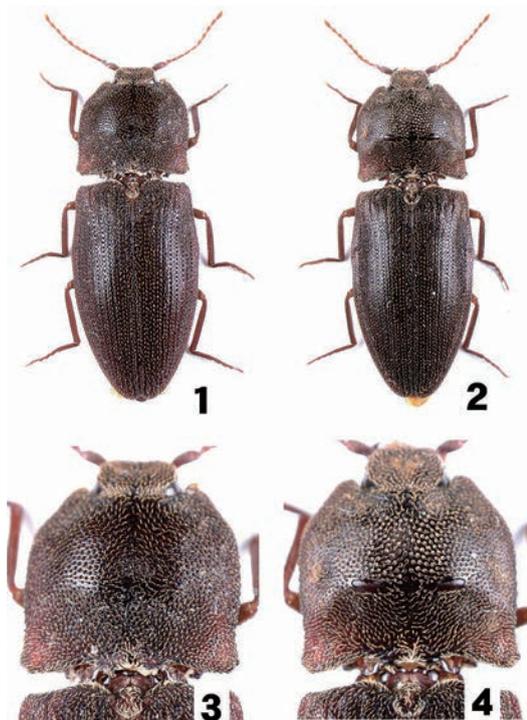
隆起物を欠いた2つの集団に分けられことが確認できた。そこで、2つの集団に含まれる個体すべての雌雄を確認したところ、雌個体では平滑隆起物が1例を除き存在し、良く発達する傾向にあること、雄個体ではまったく不明瞭もしくは存在しないことが判明した。例外の1例は、石垣島のオモト岳で採集された個体で、雌にもかかわらず、平滑隆起物が認められなかった。また、はっきりとは確認できなかったが、大平・楠井(1990)が記録した徳之島産の雌個体も、掲載写真からは平滑隆起物が認められないように見える。以上のことから、平滑隆起物の有無は雌雄を区別することには有効であるが、まれにはあるが例外があることが明らかになった。

同属別亜属に含まれるサビキコリ *Agrypnus (Agrypnus) binodulus* (Motschulsky, 1861) やムナビロサビキコリ *A. (A.) cordicollis* (Candèze, 1865) においては、雌雄ともに前胸背板に1対の瘤状平滑部が存在し、この瘤状平滑部の形質においては性差は認められていない。しかし、これらのサビキコリでは、ミゾムネヒメサビキコリには認められない性差が知られており、雌では見かけ上の腹部第5節に楕円形の無毛平滑部が中央に存在し、雄では毛で被われ、平滑部は存在しない(大平, 1969)。

なお、本種に近縁なナガオミゾムネヒメサビキコリ *A. (Sagojo) nagaio* (Ôhira, 1966) については、検視できた個体数が限られ、同様の傾向があるのかを確認するには至らなかった。

本報告を書くに当たり、標本をご提供いただいた青木淳一、藤田宏、深町宗道、故五味玉樹、花谷達郎、井上富夫、金子義紀、野田亮、西野久雄、小畑裕、斉藤昌弘、酒井香、露木繁雄の各氏、文献入手でご協力いただいた石澤尚史氏に厚くお礼申し上げます。なお、検視標本はすべて鈴木が保管している。

検視標本(16♂♂ 33♀♀)。[鹿児島県黒島] 1♂, 大里, 14. V. 2016, 青木淳一採集。[屋久島] 2♂♂ 2♀♀, 一湊矢害山, 30. V. 2008, 藤田宏採集; 1♂, 栗生, 18. IV. 2010, 井上富夫採集。[奄美大島] 1♀, 湯湾岳, 5-9. VII. 1968, 酒井香採集; 1♂, 中央林道[名瀬], 24. VI. 1995, 金子義紀採集; 1♀, 宇検村湯湾岳, 2. VII. 2000, 井上富夫採集; 1♂, 宇検村湯湾岳, 4. IV. 2000, 井上富夫採集; 2♂♂ 2♀♀, 中央林道[名瀬], 27. VI. 2004, 小畑裕採集; 1♀, 大和村名音フォレストポリス, 15-19. VI. 2007, 西野久雄採集; 2♂♂ 1♀, 宇検村赤土山林道, 西野久雄採集; 1♀, 住用町神屋, 11. VII.



Figs. 1-4. *Agrypnus (Sagojo) yuppe* (Kishii, 1964) from Amami-oshima Is. 1 & 3, ♂; 2 & 4, ♀.

2010, 野田亮採集; 5 ♀♀, 名瀬知名瀬, 31. VII. – 12. VII. 2011, 鈴木互採集; 2 ♀♀, 宇検村湯湾 (300 m), 14. IX. 2012, 野田亮採集; 1 ♀, 名瀬知名瀬, 10–15. IX. 2012, 鈴木互採集; 3 ♂♂, 宇検村湯湾岳の北部地域, 6. IV. 2013, 西野久雄採集; 2 ♀♀, 住用町三太郎林道, 8. IX. 2013, M. Nishi leg.; 1 ♀, 瀬戸内町阿木名由井, 22. III. 2014, 齊藤昌弘採集; 7 ♀♀, 住用町神屋住用ダム, 5–6. VII. 2014, 野田亮採集; 1 ♀ (Fig. 2), 住用町東仲間三太郎峠, 11. IV. 2019, 蟹江昇採集; 1 ♂ (Fig. 1), 名瀬, 12. IV. 2019, 蟹江昇採集. [徳之島] 3 ♀♀, 剥岳, 5. XI. 2012, 青木淳一採集. [沖縄島] 1 ♀, シコリ, 12. VI. 1975, 深町宗道採集. [石垣島] 1 ♀ (平滑隆起物非存在個体), オモト岳, 20. VIII. 1976, 五味玉樹採集. 1 ♀, オモト岳, 16. V. 1975, 深町宗道採集; 1 ♀, パンナ岳, 24. V. 1984; 1 ♂, 嵩田林道, 20. V. 1990, 花谷達郎採集.

文献図確認(4 ♀♀). [口永良部島] 1 ♀ (Holotype), Kuchinoerabu-jima Is., 29. VII. 1963, T. Kishii leg. (Kishii, 1964: pl. 2, fig. 1). [奄美大島] 1 ♀, 奄美大島, 19. VI. 1961, 芝田太一採集 (大平, 1970: pl. 2, fig. A). [徳之島] 1 ♀, 徳之島, 9. VIII. 1988, 楠井善久採集 (大平・楠井, 1990: fig. 2F). [久米島] 1 ♀, Mt. Ohtake, 17. V. 2000, M. Yagi leg. (Kishii, 2004: 168, fig. 1, ♂ [♀]).

引用文献

- Kishii, T., 1964. Elateridae of islands Awa-shima, Hegura-jima and Nanatsu-jima. The snappers of islands (IV). Bulletin of the Heian High School, Kyoto, (8): 1–38.
- Kishii, T., 2004. A study on the click beetles collected by Mr. M. Yagi from Kume island in the Okinawa (Coleoptera, Elateridae). Entomological Review of Japan, Osaka, 59: 167–176.
- 岸井 尚, 2006. 細川浩司氏蒐集の邦産コメツキムシ. 地域甲虫自然史, (2): 1–89.
- 大平仁夫, 1969. 日本のコメツキムシ (II). 昆虫と自然, 4 (11): 25–31.
- 大平仁夫, 1970. 九州に産するコメツキムシ科の珍種 (7). 北九州の昆蟲, 16: 61–64, pl. 2.
- 大平仁夫・楠井善久, 1990. 琉球列島小島嶼のコメツキムシ. 月刊むし, (23): 26–29.
- 大平仁夫・楨原寛, 2012. 奄美大島油井岳の異なる5林相区で捕獲されたコメツキムシ類について. 比和科学博物館報告, (53): 33–47.

(鈴木 互 211–0031 川崎市中原区木月大町 6–1
法政大学第二高等学校生物科)
(蟹江 昇 489–0837 瀬戸市西洞町 117)

【短報】ミチコヒメハナハネカクシの西限記録

ミチコヒメハナハネカクシ *Omoplandria gyrophaenula* (Sharp, 1888) はハネカクシ科ヒゲトハネカクシ亜科のニセヒゲトハネカクシ族 *Hoplandriini* に属する, 体長 2 mm ほどの小型のハネカクシで, 現時点ではヒメハナハネカクシ属の日本唯一の種である (柴田ほか, 2013). 一見するとヒメハネカクシ族 *Athetini* やカレキハネカクシ族 *Homalotini* (特にツヤキノコハネカクシ属 *Gyrophaena*) に所属するように思えるが, 付節式が 4–5–5 であることや小顎肢の先端に擬節 (pseudosegment) を有し見かけ上 5 節に見えること, 雄交尾器中央片に “athetine bridge” を欠くなどで区別できる (Sawada, 1977; Seevers, 1978). また, ニセヒゲトハネカクシ族の他属からは付節式や中胸背板の形態, 中脚基節がほぼ接すること, 右大顎に明瞭な 2 小歯を有することで区別できる (Kishimoto, 2002).

本種は “Kurigahara” (碓氷峠の群馬県側に位置) においてジョージ・ルイスによって採集された標本に基づき, 当初はカレキハネカクシ属 *Homalota* に属するものとして記載された (Sharp, 1888). その後, 本種のタイプ標本の検討により, タイプが雌であることが示されるとともに再記載が行われ, 現在のヒメハナハネカクシ属に所属が変更された (Sawada, 1977). 2000 年代になって, 埼玉の秩父山地から多数が採集され, この時初めて雄が記載されるとともに, 夏期にヤマアジサイの花に集まるという生態が報告された (Kishimoto, 2002).

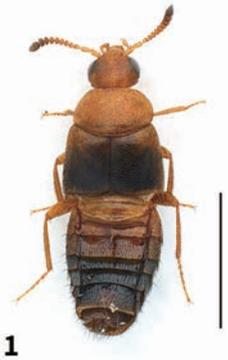


図1. ミチコヒメハナハネカクシ♂ (岡山県産). スケール: 1.0 mm.



図2. 生息環境. 中央のリョウブの花より採集された.